

潜在危険性

火災・爆発

- ・ きわめて燃えやすい。熱、火花、火災で容易に発火する。
- ・ 蒸気は空気と爆発性混合気を形成する。
- ・ 蒸気が発火源まで達し、フラッシュバックするおそれがある。
- ・ 多くの蒸気は空気より重く、地面に沿って拡がり、低い、あるいは密閉された場所（下水道、地階、タンク）にたまる。
- ・ 屋内、屋外又は下水溝中で蒸気爆発のを起す危険性がある。
- ・ Pと明示された熱せられたり火災に巻き込まれると、爆発的に重合するおそれがある。
- ・ 下水溝に流れ込むと火災・爆発の危険がある。
- ・ 加熱すると容器が爆発するおそれがある。
- ・ 多くの液体は水より軽い。

健康

- ・ 吸入や皮膚から吸収により中毒を起こすおそれがある。
- ・ 吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。
- ・ 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- ・ 蒸気は、めまいや窒息を引き起こすおそれがある。
- ・ 消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

公共の安全

- ・ **まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。**
- ・ 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外は近づけない。
- ・ 風上に留まる。
- ・ 低地から離れる。
- ・ 密閉された場所に入る前に換気する。

保護具

- ・ 空気呼吸器（SCBA）を着用する。
- ・ 防火服も限られた防護をすぎるに過ぎない。

避難

大量漏洩時

- ・ 風下に適切な避難距離をとる。

火災時

- ・ タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

これらすべての物質は引火点が極めて低い：消火の効果がないおそれがある場合は散水する。

小火災

- ・ 粉末消火剤、二酸化炭素、散水、一般の泡消火剤を使う。

大火災

- ・ 散水、水噴霧又は耐アルコール性泡を用いる。
- ・ 棒状注水してはいけない。
- ・ 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。

タンク火災あるいは車／トレーラーの積荷火災

- ・ 可能な限り遠くから、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
- ・ 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- ・ 安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
- ・ 火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。
- ・ 大火災の場合は無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する；これが不可能な場合にはその場所から避難し、燃焼させておく。

漏洩時

- ・ すべての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）。
- ・ 漏洩物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地する。
- ・ 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
- ・ 危険でなければ漏れを止める。
- ・ 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- ・ 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
- ・ 乾燥した土、砂や不燃材料で吸収させ、あるいは覆って容器に移す。
- ・ 吸収したものを集めるとき、きれいな帯電防止工具を用いる。

大量のもれ

- ・ 前方にせきを作り、後で廃棄する。
- ・ 散水は蒸気濃度を低下させる；しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれもある

応急手当

- ・ 被災者を新鮮な空気のある場所に移す。
- ・ 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- ・ 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。
- ・ 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- ・ 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15〔20〕分間洗浄する。
- ・ 石鹼と水で皮膚を洗う。
- ・ 被災者を温め、安静にする。
- ・ 物質への暴露（吸入、摂取、皮膚付着）により遅発性の影響を生じるおそれがある。
- ・ 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。
- ・ 救急車を呼ぶ。